

国際委員会(第25期・第3回)議事要旨

1. 日 時：令和3年1月25日(月) 10:00～12:00
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：高村委員長、佐野委員、白波瀬委員、日比谷幹事、荒井委員、後藤幹事、沖委員、梶田委員、小池副委員長
(事務局)：市川国際業務担当参事官、国際業務担当室員

議 題

(1) 国際委員会議事要旨(案)(第1回)について

委員長より資料の説明後、承認された。

(2) 国際活動の強化について

委員長からの「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)(令和2年12月16日 日本学術会議幹事会)」の説明後、国際活動を強化するための検討事項について審議が行われた。委員から、23期・24期に150あまりの提言が出ているが、英語化されたのは7件、中国語が1件と5%に過ぎないこと、18期から行われてきた「知の統合」など国際的な議論を先取りしていた深い議論が、フューチャー・アース等の国際的な議論にほとんど反映されていないようであるのは、提言の英文化による国際発信が圧倒的に少なかったからではないか等の指摘があり、学術会議として英語による発信を進め、かつ支援する体制を構築する必要性が指摘された。また、英文化に要する時間を考慮した上での提言作成、少なくとも要約は英訳すること、ネイティブチェックを含めた英訳のための財源の確保の検討、日本社会に向けた提言であっても国を超えた共通する課題については提言に組み込んでいくことや日本社会に特化した内容の提言については、国際的に発信する際伝わりやすさを工夫すること等の意見が出された。また、会員等の活動成果の効果的な国際的情報発信の強化や広報委員会との連携、国際活動を支えるスキルある人材の確保やそのスキル蓄積の必要性についても意見が出された。

(3) ISCの活動について

事務局からのISC理事会役員選挙についての資料説明後、日本学術会議からは第1回ISC等分科会(1月21日開催)で了承された白波瀬佐和子委員をISC理事会役員選挙の立候補者とするについて全会一致で了承された。また、1月28日の幹事会懇談会への報告をもって最終決定とすることとされた。

(4) その他

- ①令和2年度の行政事業レビューにおいて、日本学術会議の「各国アカデミーとの交流等の国際的な活動」に関し指摘(通告)があったこと、指摘事項に対するフォローアップを策定したことについて、事務局から説明した。
- ②令和2年9月開催予定の次回S20について、主催者であるイタリア・リンチェイ国立アカデミーから案内されたテーマや、国際委員会での共同声明案の査読について、事務局から説明した。

③日本学術会議が参画している Future Earth に関し、その組織改編の動きや Global Secretariat Hub 公募への対応に関するフューチャー・アースの国際的展開対応分科会での審議等について事務局から説明した。

以上